

<令和 7 年 9 月定例記者会見>

1 開催日時

令和 7 年 9 月 8 日（月）午前 10 時 30 分～午前 11 時 00 分

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、岩手日報社、河北新報社

4 発表事項

（１）滝沢市観光物産協会まつり「秋のチャグまるしえ滝沢」の開催について（観光物産課）

一般社団法人滝沢市観光物産協会主催の「滝沢市観光物産協会まつり～秋のチャグまるしえ滝沢～」が 9 月 20 日（土）に開催されます。会場はビッグルーフ滝沢です。

市内の美味しいものを集めた「飲食コーナー」、e-bike(イーバイク)試乗体験などの「体験コーナー」や、滝沢総合公園内で行う健康ウォーキング「クアオルト体験」など、ご家族でお楽しみいただける催しが盛り沢山です。

1 日限りのイベントですが、ぜひたくさんの皆様に楽しんでいただきたいと思います。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

（２）タウンミーティングの開催について（企画政策課）

市民の皆さんの市政への関心を高め「やさしさに包まれた滝沢」の醸成を目指すため、タウンミーティングを開催します。

タウンミーティングは、市の取り組みなどを皆さんに積極的に公開・周知する場です。昨年度は初開催であり、滝沢ふるさと交流館での開催でしたが、2 年目となる今年度は市内 3 か所で開催します。申し込み不要で、途中の出入りも自由ですので、どなたでも気軽に参加できます。

滝沢市の将来について一緒に語ってみませんか。ぜひご来場をお待ちしております。

（３）たきざわあそぼうさいの開催について（防災防犯課）

本市では、9 月 28 日にビッグルーフ滝沢において「たきざわあそぼうさい」を開催します。

いつ起こるか分からない災害に備えて、家族で遊びながら学ぶことのできるイベントとなり、防災ヘリの上空飛行、消防車や警察車両、自衛隊車両の展示を予定しているほか、放水やドローン操縦など、防災に関する体験を遊びながら行うことができます。

なお、昨年引き続き、株式会社ファムカンパニーが開催する「おやこフェスタ 2025」と同時開催となります。クッキングや各種ワークショップなど親子向けの体験イベントが盛りだくさんで、キッチンカーの出店も予定しております。

入場無料のイベントとなりますので、たくさんの方のお越しをお待ちしております。

事前の周知及び当日の取材につきまして、どうぞよろしくお願いいたします。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：タウンミーティングの昨年度の参加者数を教えてください。また、開催場所を増やした理由を教えてください。

企画政策課長：タウンミーティングは、昨年度は試行的に1回取り組みました。参加者数は20代から80代までの方々で計18名でした。開催場所を増やした理由は、市長のモットー「市民と、かしこまらずに対話したい」を実現するため、多くの機会を設けて実施したいという考えから、市内3か所にしました。

市長：昨年度は、親子で参加した方もいらっしゃいました。子供からの質問もお答えいたしました。各世代の方と対話したいと思っています。いつでも、どこの会場でも来場いただけるので、多くの皆さんに参加してほしいと思います。市制についての説明と、質問にもお受けしたいと考えています。

記者：お話される内容は幅広くというイメージでしょうか。

市長：そうです。

記者：あそぼうさいについて、昨年との違いはありますか。遊びながら学ぶということですが、改めてどのような狙いがありますか。

防災防犯課長：昨年度は10, 100人の来場がありました。今年度は、昨年度より消防車両が多く、ポンプ8台、小型積載車4台を展示します。滝沢市消防署においても水素付きポンプ車、救急車を展示します。新たな取り組みとしては、水素付きポンプ自動車をお子たちが綱引きの綱で、人を救助するという想定で引くイベントを行います。何人で引けば救助ができるのか、ということをお子さんに学ぶにつなげるためのイベントとなっています。ドローン操縦体験も初めて行います。ドローン操縦は小さい子供も興味があると思いますので、災害の時に役に立つのだということをお子さんに学んでもらいたいと思います。警察車両は、機動隊からパトカーや白バイ、自衛隊からはパジェロ、偵察隊バイクを展示します。災害がいつ起こるかわからない状況で、小さい子供から大人まで、どのように対応すればよいか、また、どのような人が災害対応に関わっているのかをお子さんに学ぶ機会にさせていただきたいと思っています。消防団員の活動についても知っていただき、将来消防団員を目指す子供が一人でも増えるようなイベントにしたいと思っています。

記者：他の自治体でも同様のイベントはあるのでしょうか。

防災防犯課長：今年度、雫石町では消防演習と同時開催で消防フェスティバルというイベントを行っています。

記者：ポンプ車を動かすイベントの時間は何時でしょうか。

防災防犯課長：11時と13時です、

記者：あそぼうさいは今年度で2回目でしょうか。

防災防犯課長：そうです。

市長：昨年度、親子連れで多くの皆さんに来場いただいています。今後、岩手山の噴火も気を付けていかなければならないので、普段、各家庭で防災について話し合うひとつのきっかけになればいいと思っています。

6 その他記者からの当日質問

記者：議会の一般質問でもクマの出没について取り上げられていますが、緊急銃猟の制度が始まって、市としてマニュアルを、いつぐらいを目途に作成されるのでしょうか。また、答弁では近隣市町と広域で連携していくということでしたが、どのように連携していくのでしょうか。

市長：今年は、山にエサが少なく人里に降りてくる頻度が高いと感じています。目撃情報をもとに罠の設置をしたいと思っています。クマも冬眠に向けてたくさん食べなければならない時期ですので、家の周りに残飯を置かない、実のなる木があれば収穫をしておいたり、切るなどを進めていきたいと思っています。この後も注意喚起しながら、これまで通り市民に情報提供していきたいと思っています。広域連携については、お互いに持っているアプリを活用したり、境での出沒情報を共有しながら対策していきたいと思っています。また、クマが移動するような河川敷などの草を刈ったり、目につくように管理をしていきたいと思っています。

経済産業部長：マニュアル作成スケジュールについては、8月末に県から示されたものを見ながら体制をどのように整えるか考えていきたいと思っています。県から示されたマニュアルの中で、首長に権限が移るわけですが、実際に現場で対応するのは猟友会なので、市街地で銃を使用するような想定がどこまでなのか、といったところも猟友会へ聞き取りしながら作成していきたいと思っています。クマが川伝いに出没するということは、複数の自治体にまたがっているということなので、現在も他自治体と連携はしていますが、更なる連携というのはどこまでできるのかということも含め、スケジュールを決めて作業していきたいと考えています。

副市長：特に、八幡平市・雫石町と更に連携していきたいと思っています。また、県の管理する河川敷の草刈りについて、県に要望書を提出しました。県とも協議しながら、対応していきたいと思っています。昨年、室小路にクマが出没した際も、市民の皆さんは不安が大きかったと思いますので、様々取り組みながら対応していきたいと思っています。

市長：猟友会の体制もしっかりと作りながら対応していきたいと思っています、市がルール決めても、実際に対応いただくのは猟友会ですので、担い手の育成も含め、そこが根幹であると感じています。

記者：石破総理辞任について市長の率直な受け止めをお聞きしたいです。また、今後期待したいことはありますか。

市長：突然の辞任でしたが、総理の決断であったと思っています。会見の中で私が一番印象に残っているのは、地方創生に関してまだまだやりたいことがあると仰っていた点です。私も市長としていつも感じていることは、これからの少子高齢化、人口減少の中で、何をしていくべきか常に職員と一緒に考えています。石破総理は、地方のあり方、実情、災害など、様々なことに駆け付け、情報収集し、寄り添ってくださいました。地方創生という言葉が、飾り言葉にならないように実効性を伴った施策になることを期待していたので残念ではありますが、国の動向を見極めながら我々は対処していくしかないと思っています。心配していることとしては、私立高校の授業料無償化をしっかりとやっていけるのか、子どもたちに影響のないように残りの任期の中で説明してもらいたいと思っています。不眠不休で頑張っていたという話も聞いていたので、まずはお休みくださいということと、今後の国のために様々な後押しをし

ていただければと感じています。